

氏名	川北 祝史
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 5897 号
学位授与の日付	平成31年3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Protective effect of nicorandil on myocardial injury following percutaneous coronary intervention in older patients with stable coronary artery disease: secondary analysis of a randomized, controlled trial (RINC) (ニコランジルが、安定冠動脈疾患を有する高齢患者に対する経皮的冠動脈インターベンション施行後の心筋障害発症に与える保護的な影響：ランダム化比較試験(RINC 研究)の二次解析)
論文審査委員	教授 笠原真悟 教授 成瀬恵治 教授 森田 宏

学位論文内容の要旨

背景: 周術期心筋障害(pMI)発症が、その後の予後に関係する事が報告されている。遠隔虚血プレコンディショニング(RIPC)或いはニコランジル(NIC)静注が、安定冠動脈疾患(CAD)を有する高齢患者に対する経皮的冠動脈インターベンション(PCI)後の pMI 発症抑制に寄与するかを調べた。

方法と結果: 本研究では、PCIを検討されている CAD 患者が、対象群、NIC 静注群、上肢 RIPC 群に、1:1:1 で割り付けられている主研究のコホートから、65 歳超の患者 282 人を抽出し解析した。主要アウトカムは PCI 後の pMI 発症とし、pMI は、PCI 後 12 時間或いは 24 時間時点での高感度トロポニン T 値又は CK-MB 値の上昇と定義した。結果、対象群に比し NIC 群において pMI の発症頻度が有意に低かったが、RIPC 群では有意差を認めなかった。

結論: NIC 静注が、CAD を有する高齢患者に対する PCI 後の pMI 発症抑制に寄与するが、長期予後を含めた更なる検討が必要である。

論文審査結果の要旨

研究の背景と目的: 経皮的冠動脈インターベンション(PCI)後の周術期心筋障害(pMI)の発症抑制に関し、遠隔虚血プレコンディショニング(RIPC)もしくはニコランジル(NIC)静注がどの様に関与しているかの臨床研究である。

研究の成果: 本研究では、NIC 静注が、安定冠動脈疾患を持つ高齢患者の PCI 後の pMI 発症抑制に関与していることが示された。

予備審査における疑問点や問題点: 多施設共同研究のサブ解析としてのこの研究は、多くのデータに基づく価値ある有用な情報をもたらすものである。しかしながら、患者背景において心疾患以外の多くの疾患を持つ高齢者という多様性ため、この結果がすぐに治療での有効性が評価できるかは今後の課題である。研究者はさらなる解析を進めており、その意味でもこの研究は価値ある業績と考える。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。